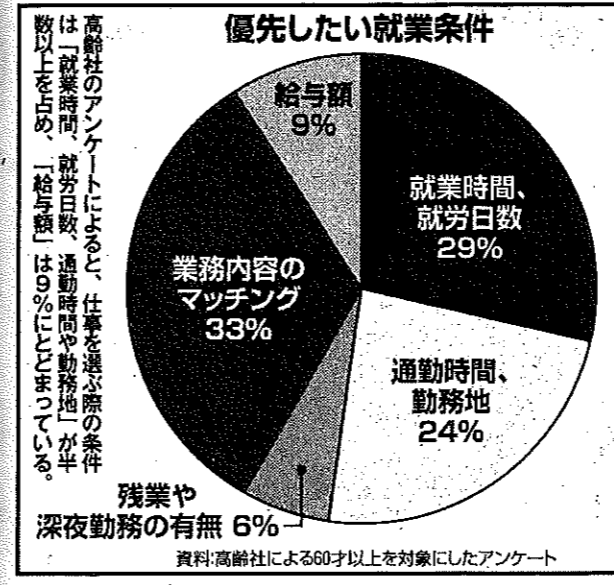
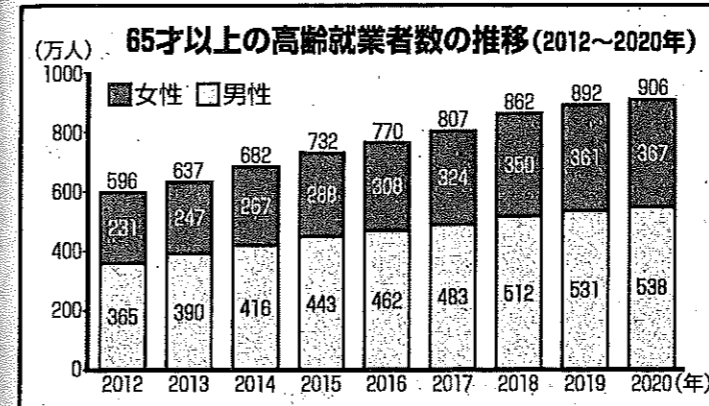


マイペースで働けば、毎日がどんどん楽しくなる なく、働くから元気になる



きたい。そして、できることなら働きがいも持ちたいが、年を取ってから仕事
ま、正社員も非正規社員も人手不足が懸念されており(22年2月時点)、今後、
を実践している先輩たちに、その働き方を聞きました。



高齢社

「現役世代の人手が足りていない業務や、時期を埋めることができて、人生経験も豊か。高齢者へのニーズは、今後も高まると思います」
そう語るのは、高齢者限定の派遣会社「高齢社」(東京都)社長の村岡不三夫さん(66才)。

高齢社は、東京ガスのOB 25人でスタート。ガス機器の使用説明や点検作業は休日に行うことが多く、これまででは正社員が本業の合間に担務していたという。「そこで、創設者の上田研二が「定年した先輩たちは経験も豊富で気力もあるのに暇を持て余している。彼らに手伝ってもらえばいいじゃないか」と考えたのが、高齢社の出発点です」(村岡さん、以下同)

総務省が21年に発表した高齢者に関する統計によると、65才以上の就業者数は年々増加し、20年には906万人と過去最高となった(上グラフ参照)。なかでも65~69才の女性の就業率(65~69才の女性人口に占める就業者の割合)は、約4割にも上る。さらに、70代を迎えた団塊の世代は「好きなことに積極的にお金を費やし、働けるうちは働きたい」というアクティブシニアが多い。そんな時代にマッチしたシニアの働き方はないものだろうか。「当社では、1つの業務を複数人で分け合うワークシェアリングを基盤としています。基本は週3日、自分の都合のよい時間に働く。年金と併用し、体に無理なく働いていたくスタイルです。」



「当社では、1つの業務を複数人で分け合うワークシェアリングを基盤としています。基本は週3日、自分の都合のよい時間に働く。年金と併用し、体に無理なく働いていたくスタイルです。」
業務内容は、当初は東京ガス関連が主だったが、現在、他分野の仕事が4割に拡大した。事務作業やスーパリーの店員、制服の洗濯・アイロンがけ、ビル屋上緑化の維持管理など、仕事の強度や働く時間帯は個人の都合によりさまざま。ユニークなところでは、家電機器の修理サービス車に同乗して駐車違反を防ぐという業務もあり、人気の仕事の一つだとか。しばらく働いていないという主婦の登録も受け入れているそうだ。

「70才までの雇用努力義務や年金の繰り下げ受給といった高齢者も働こう」という世の流れに押され、当社の登録者も、働かされ感のある人なものがある」と書いてありました。1つ目は健康、2つ目は社会とのつながり、3つ目は、お金をそこそこ稼げること。まさに当社の働き方そのものです。登録者のみなさんからも、この形がライフスタイルに合っているという声が多いんです」
業務内容は、当初は東京ガス関連が主だったが、現在、他分野の仕事が4割に拡大した。事務作業やスーパリーの店員、制服の洗濯・アイロンがけ、ビル屋上緑化の維持管理など、仕事の強度や働く時間帯は個人の都合によりさまざま。ユニークなところでは、家電機器の修理サービス車に同乗して駐車違反を防ぐという業務もあり、人気の仕事の一つだとか。しばらく働いていないという主婦の登録も受け入れているそうだ。

高齢社社長の村岡不三夫さん。モットーは「はげあたま」。

「はげあたま」で好きなことを極めるために働く

不景気だけど実は人手不足。空いた時間を使って 元気だから働くのでは

人生100年時代と聞くと、年金だけでは心許ない。できれば体に無理なく働
を探するのは難しそうに思える。ところが、帝国データバンクの調査では、い
シニアへのニーズが高まりそうだ。そこで、ひと足お先に「幸せな働き方」

60才からの仕事の流儀

が多いのでは?と疑問を持って取材に来たメディアのかたが、みんな元気で楽しそうに働いているのでびっくりしたとおっしゃっていました(笑い)。
派遣を依頼する企業からは「よく言われるのは、人生の先輩として、「さりげなくアドバイスをしてもらえるので助かる」ということ。また、社員が気づかないことを進んでやってくれるということですね。たとえば、レンタカー会社に派遣している登録者さんには、誰からも言われていないのに、朝から草むしりをしてくれるそうです。こういう気遣いができるのが、高齢者の強みでしょう」
村岡さんがモットーに掲げる「はげあたま」とは……? 「はたらいて/げんきになるう/あかるく/たのしく/まゑむきに、という意味です(笑い)。私自身、役職のついた現役時代に比べ、いまの方が楽しい。何でも自分でやらなくてはいけません。率先して企画し、どんどん実行するようにしています。そうすると、前向きに楽しく過ごせるのです。」

元気だから働くのではなく、働くから元気になるんですね。高齢社に入ったかたにも、昔のことはリセットし、若い人とも謙虚につきあえるようにしてください。と、前向きに楽しく過ごせるのです。」
「元気がいい、働きがいになる」
「趣味の社交ダンスや孫と遊ぶこと。」
「生きがいがある」
「仲田代子さん(72才)の場合」
東京ガス本社内のコンビニで週4日、朝7時15分から夕方4時15分まで働く仲田さん。今年の6月で勤続2年となる。「仕事の内容は、レジを中心に品出しや発注など、一通りです。」
前職の東京ガスではデスクワークでしたが、いまは立ち仕事で、重いものを持つこともあります。初めは慣れなかつたものの、システムセンターやショールームの接客等を経験していったので、レジの扱いやお客さまへの応対も抵抗はありませんでした。まったく違う職種でも、これまで

「元気がいい、働きがいになる」
「趣味の社交ダンスや孫と遊ぶこと。」
「生きがいがある」
「仲田代子さん(72才)の場合」
での経験がいろいろな場面面で生きてくるなど感じますね。周りのかたがたも親切に教えてくださるので、気持ちよく働かせていただいています」(仲田さん、以下同)
65才で2度目の定年を迎えたとき、先輩に声をかけてもらい、高齢社に登録した。「これからは働こうと思った理由は、趣味の社交ダンスのレッスン代や、同居する孫と遊びに行くためのお金を得て、生活をより豊かに過ごしたいと思ったからです。それに、まだ健康ですし……」
社交ダンスを始めたのは60才から。カルチャーサークルから個人レッスンに移行し、本格的に打ち込んでいます。
「定年の少し前、これからは自分の時間を好きなことに費やしたい、やるなら体にいいものがないかと思ひ、昔取った杵柄で社交ダンスを選びました。年に1回、きれいなドレスを着て先生とデモンストレーションを踊る機会があるんです。そのためにはもっと上手になりたいと練習に励んでいます。なので、普通のレッスンよりお金がかかります(笑い)。」
それでも、還暦を過ぎて趣味に出合えたのは本当に幸せで、それは働きがいにもつながっているんです。若い頃は仕事や育児など、いろんな悩みもありました。それを乗り越えてきたから、いまはご褒美かな、と」
平日4日働いて1日レッスンにあてるというサイクルは、現在のところちょうどいい。「正直なところ、真冬の朝6時過ぎに出勤するのは尻込みすることもありますが、それでも、いまはまだ健康で意欲があるので、打ち克っているのかなと感じています」
高齢社での仕事を終えて、自

「元気がいい、働きがいになる」
「趣味の社交ダンスや孫と遊ぶこと。」
「生きがいがある」
「仲田代子さん(72才)の場合」
「70才までの雇用努力義務や年金の繰り下げ受給といった高齢者も働こう」という世の流れに押され、当社の登録者も、働かされ感のある人なものがある」と書いてありました。1つ目は健康、2つ目は社会とのつながり、3つ目は、お金をそこそこ稼げること。まさに当社の働き方そのものです。登録者のみなさんからも、この形がライフスタイルに合っているという声が多いんです」
業務内容は、当初は東京ガス関連が主だったが、現在、他分野の仕事が4割に拡大した。事務作業やスーパリーの店員、制服の洗濯・アイロンがけ、ビル屋上緑化の維持管理など、仕事の強度や働く時間帯は個人の都合によりさまざま。ユニークなところでは、家電機器の修理サービス車に同乗して駐車違反を防ぐという業務もあり、人気の仕事の一つだとか。しばらく働いていないという主婦の登録も受け入れているそうだ。

高齢社社長の村岡不三夫さん。モットーは「はげあたま」。

高齢社基本データ (2021年9月現在)

- 登録社員 938人
- 登録可能年齢 原則65才以上
- 登録社員の平均年齢 71.1才 (最高齢84才)
- 就労率 38.1%
- 登録条件 週3日程度、ワークシェアリング
- ※働く人の都合により異なる
- 平均収入 上記の勤務日数で月10万~20万円
- または時給 ※業務内容により異なる
- URL <https://www.koureisha.co.jp>

*1 2度目の定年とは、60才定年後の再雇用が終了すること。再雇用の年数は企業により異なる。